



2022年10月5日

各 位

会 社 名 株式会社日本色材工業研究所
 代表者名 代表取締役社長 土谷 康彦
 (コード:4920 スタンダード市場)
 問合せ先 取締役経理・財務部長 霜田 正樹
 (TEL. 03-3456-0561)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2022年4月12日に公表しました2023年2月期(2022年3月1日~2023年2月28日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

(1) 2023年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2022年3月1日~2022年8月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,318	129	88	60	29.08
今回修正予想(B)	5,612	35	26	75	35.82
増減額(B-A)	294	△94	△62	14	
増減率(%)	5.5	△72.9	△70.3	23.2	
(ご参考)前年同期実績 (2022年2月期第2四半期)	4,354	△190	△121	△116	△55.47

(2) 2023年2月期通期連結業績予想数値の修正(2022年3月1日~2023年2月28日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,465	191	105	136	65.24
今回修正予想(B)	11,583	155	100	194	92.93
増減額(B-A)	1,118	△35	△4	58	
増減率(%)	10.7	△18.7	△4.5	42.5	
(ご参考)前期実績 (2022年2月期)	8,702	△267	△171	△122	△58.23

2. 個別業績予想の修正について

(1) 2023年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2022年3月1日~2022年8月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,808	44	32	15.37
今回修正予想(B)	4,266	74	111	53.08
増減額(B-A)	457	30	79	
増減率(%)	12.0	70.4	245.4	

(2) 2023年2月期通期個別業績予想数値の修正(2022年3月1日～2023年2月28日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,570	62	120	57.46
今回修正予想 (B)	8,533	41	155	74.33
増減額 (B - A)	962	△21	35	
増減率 (%)	12.7	△33.5	29.4	
(ご参考) 前期実績 (2022年2月期)	6,563	△153	△102	△48.70

3. 業績予想の修正の理由

2023年2月期の第2四半期累計期間におきまして、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、ワクチン接種が進んでいるものの、世界規模で感染が続き、依然として先行き不透明な状況が続いております。しかし、日本においてマスク着用は続いているものの経済活動への影響は徐々に軽減し、中国ではゼロ・コロナ政策による経済・物流面の悪影響は続いておりますが、欧米ではウィズ・コロナの生活様式としてマスク着用などの感染症対策を軽減・解消する動きが進んでおります。一方で、2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化しており、特に欧州を中心に物流や資源・エネルギー供給に悪影響を及ぼし、物価上昇や金利上昇も経済への不安要素となっております。化粧品市場につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大前には大きく及ばないものの、消費者マインドの好転や外出機会の拡大、欧米でのマスク着用解消等を受けて、一部に回復の動きが見られます。

当社におきましても、売上高は、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大前を大きく下回った水準ではあるものの、国内・海外の化粧品メーカーからの受注の緩やかな回復を受けて、連結業績・個別業績共に前回発表予想値を上回りました。また、利益面では、国内事業の個別業績は各種コスト圧縮努力もあって前回発表予想値を上回る黒字を計上する見込みですが、フランス事業を含めた連結業績は欧州でのウクライナ侵攻を受けた物流遅延等の影響も大きく、営業利益・経常利益共に黒字化を果たすものの、前回発表予想値を下回る見込みです。

2023年2月期の通期業績予想につきましては、第3、第4四半期の売上高は、夏場の新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第7波)の影響はありますが消費者マインドは昨年対比で改善しており、第2四半期累計期間とほぼ横ばいを見込み、通期の売上高についても連結業績・個別業績共に前回発表予想値を上回る見込みです。また、利益面では、国内事業の個別業績は光熱費等の各種費用増もあって、通期で経常黒字を維持するものの、前回発表予想値を下回る見込みです。フランス事業を含む連結業績は、ウクライナ侵攻の影響は引き続き大きいものの連結子会社の受注増を受けて、通期で営業黒字・経常黒字を維持する見込みです。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻の影響の程度や期間が不透明な中、今後発生する様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上